

令和4年度・5年度・6年度 公立鳥取環境大学 教職課程自己点検・評価

(評価基準 A:適切に実施されている B:概ね適切に実施されているが、不十分な点もある C:改善の必要がある)

	レベル	項目	観点の例示	取り組み状況、根拠資料等	評価
①教育理念・学修目標	学科等	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	具体的かつ明確な形で設定されているか、教員の養成の目標及び卒業単位・学位授与の方針との関係が必要に応じて意識されているか 等	「人と社会と自然との共生を目指した持続可能な社会」を構築する人材を育成するために、環境問題に対する基本的な知識や理解はもちろんのこと、自然科学だけでなく、環境に関する法律や社会の在り方など、社会科学分野にも精通した「環境教育の専門」の理科教員の養成を目標として掲げている。 根拠資料：学外ホームページ	A
		教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	学生や採用権者の意見の考慮、鳥取県教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか 等	鳥取県教育委員会が策定する「鳥取県教職員育成協議会」の委員に本学の教員が含まれているので、教員育成指標については把握している。	A
		教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果（以下「学修成果」という。）や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか 等	内部質保証の観点から期末に授業アンケートを実施するとともに、中間アンケートも実施し結果を学生にコメントする等、授業改善や計画の見直しに努めている。 根拠資料：第2期中期目標・中間計画・法人評価	B
②授業科目・教育課程の編成実施	大学全体	複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか 等	「中学校・理科、高等学校・理科」の共通開設はあるが、環境学部環境学科の1学科のみであるため、「開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切におこなわれているか」の評価に該当しない。	
		教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備	I C T (情報通信技術) 環境 (オンライン授業含む)、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の	学内の主要箇所ですべて24時間いつでも学内 LAN やインターネットに接続できるネットワー	

		の整備状況	授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか 等	ク環境を整備している。 図書館には、教職関係、学校教育関係の書籍を配架し、教職課程共同ゼミ室には、過去問題集や教職関係雑誌、教育新聞を配架している。また、教員採用試験情報なども掲示している。	A
学科等	教育課程の体系性	法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか、教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか 等	科目担当教員の変更時等に学務課教職係と教職専任教員が連携して点検し、教職支援委員会で確認している。定期的な確認の機会を明示する必要がある。	B	
	I C Tの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	教員として身につけることが必要な I C T活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか、到達目標や学修量が適切な水準となっているか 等	「教育の方法と技術（ITC 活用を含む）」「理科指導法 1～4」を同じ教員が担当しており、到達目標や学修量が適切な水準となっている。	A	
	キャップ制の設定状況	1 単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか 等	学習時間を十分に確保し、健康管理の点から、各学期に登録・履修できる上限単位数を 24 単位（年間 48 単位）とし、当該単位には「教職に関する科目」は含めないこととしている。	A	
	教育課程の充実・見直しの状況	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか 等	専任教職員で履修状況を確認し合い教員課程を見直すようにしている。	A	
授業科目	個々の授業科目の到達目標の設定状況	法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか 等	シラバスの変更時に学務課教職係・教職専任教員が連携して点検し、教職支援委員会で認識している。	A	
	シラバスの作成状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか 等	学内のシラバス作成要項に基づき、授業担当教員が「授業の概要」「到達目標」「授業計画」「評価方法」「講義外での学習」を記載し、学生へ周知している。また、「実務経験のある教員による授業科目」の場合は、どのよう	A	

③学修成果の把握・可視化				な教育を行うのか記載している。	
		アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか 等	各科目とも少人数グループで話し合い、授業づくり、模擬授業等を取り入れて学生主体の授業実践に努めている。	A
		個々の授業科目の見直しの状況	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか 等	先述の授業アンケート後に改善策を立て見直すシステムがある。	A
		教職実践演習及び教育実習等の実施状況	教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習（学校体験活動含む）は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか 等	教職実践演習、事前事後指導は、教職専任全教員で実施している。教育実習は可能な限り近隣の学校で実施し、教職専任教員のみならず学部教員も授業参観、研究会に出席している。	A
	大学全体	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか 等	シラバスに、コアカリキュラムに基づいた到達目標を明記し、学生に提示している。	A
	学科等	成績評価に関する共通理解の構築	同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか 等	担当教員で成績評価のあり方を確認し、共通理解の上で評価に当たっている。	A
		教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか、教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか 等	2年次から「履修カルテ」を取り入れ、学生の自己評価と教員からのコメントを通して達成状況を確認するようにしている。	A
	授業評価	成績評価の状況	各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか、公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか 等	学生にはシラバスにおいて評価方法とその配点を示すとともに、第1回目の授業で具体的に説明するよう努めている。	A

④教職員組織	学科等	教員の配置の状況	教職課程認定基準（平成13年7月19日教員養成部会決定）で定められた必要専任教員数を充足しているか 等	本学の教職課程は、教職課程認定基準（平成13年7月19日教員養成部会決定）で定められた必要専任教員を配置している。	A
		教員の業績等	担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況 等	本学ホームページに記載されている。 根拠資料：学外ホームページ	A
		職員の配置状況	教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか 等	学務課内に「教務・教職係」として組織されている。	A
		FD・SDの実施状況	いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDが確実に実施されているか、適切な内容が実施できているか、実際に参加が確保できているか 等	全学的にとして教員として望ましい資質・能力を身につけさせるためのFD・SDは実施しているが、教職課程に特化したFD・SDは実施していない。	B
	授業評価	授業評価アンケートの実施状況	個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか 等	全学生を対象に、授業アンケートを実施している。授業アンケート結果は、授業担当教員にフィードバックされ、授業改善に活用してもらっている。	B
⑤情報公表	大学全体	学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行えているか 等	法令で定められた項目について、本学ウェブページ「大学紹介→情報公開・外部評価 →教職課程に関する情報」において公表している。	B
		学修成果に関する情報公表の状況	大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか 等	直近5年間の教員免許取得状況は、次のとおりである。 ○中学校一種(理科)／高等学校一種(理科) 令和5年3月卒(11名)(12名)	A

				令和4年3月卒（12名）（20名） 令和3年3月卒（15名）（18名） 令和2年3月卒（10名）（11名） 令和元年3月卒（15名）（15名）	
		教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか	公開に向けて準備を進めている。	C
⑥教職指導 （学生の受け入れ・学生支援）	学科等	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか、教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか 等	学部のホームページや大学案内等に教職課程に関する記事を掲載したり、オープンキャンパスや進学ガイダンス等でも説明を行ったりしている。また、1年次に対しては、入学直後のフレッシュャーズセミナーで教職課程の概要を説明し、後期のはじめに教職課程ガイダンスを実施している。	A
		学生に対する履修指導の実施状況	必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか、「履修カルテ」を適切に活用できているか 等	教職課程の質的水準の向上への取り組みとして、履修する学生一人ひとりに教職専任教員を「担当教員」として配置し相談体制の充実を図るとともに、「履修カルテ」による指導の強化に取り組んでいる。 根拠資料：第2機中期目標・中間計画・法人評価	A
		学生に対する進路指導の実施状況	学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか 等	教員採用試験の模擬試験を案内し、模試受験料の一部を助成している。教員採用試験情報を掲示・メール配信したり、個別に自治体職員による採用試験説明会の機会を設けたりしている。	A

⑦ 関係機関等との連携	大学全体	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか 等	教職専任教員が教育委員会の委員等を務めたり、教育委員会を訪問したりして連携・交流を図っている。	A
		教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか、学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか 等	大学周辺にある公立の中学校や高等学校で教育実習の受け入れをいただいている。教育実習の巡回指導の際、次年度の受け入れについて依頼し、内諾を得ている。 また、教育委員会と連携し、学校教育ボランティアの機会を得ている。	A
		学外の多様な人材の活用状況	学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができているか 等	学校現場で教員経験のある者及び公認心理師・臨床心理士としての実務経験を有する者を教員として採用している。また、多くの授業で学外の方を招聘した特別講義を取り入れている。	A